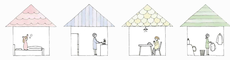
かかわりあいのまにまに

01 均質化していく住宅



自分ではない第三者にあらかじめ決められた
領域の中で暮らす住人。

今の住宅はいかにその中で快適に
過ごせるかばかりを考えているのではないか。

02 住むことの根源とは

【仮説】

人が住むための領域は第３者が線引きするのではなく
人と人との関係＝生態系の中で自然とつくられるもの。
自然にできたその領域は、住む人にとって居心地の良い、
その人の生活にあったものとなると考える。

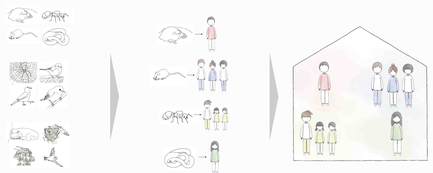
03 身近な動物の棲み処

動物の世界では、それぞれの領域は生態系の中で
自然の摂理的に確立されている。
そして動物たちは少しずつかかわりあいながらすみわけをして
自分の居心地の良い場所を守っている。

04 主旨―動物の生態系を人間にあてはめる

【動物をあてはめた人間のすむシェアハウス】

生態系の中で、お互いに影響し合いながら共存する動物のように住むことができれば、
社会的な関係性のなかで生きる私たちも、かかわりあいの中で自分の棲み処を見出すことができるのではないか



01. 動物の選定

巣やねぐらを もつ12種の動物を選び、
同じような環境に巣やねぐらをつくる
動物ごとでグループを作る。

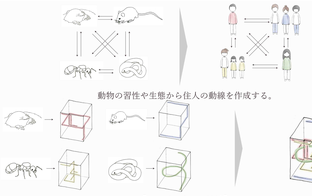
02. 住人のキャラクター設定

動物の習性や生態を人間にあてはめて、
住人のキャラクターを設定する。

03. 住宅内の相関関係の作成

実際の動物どうしの関係から、
シェアハウス内の住人どうしの関係を
作成する。

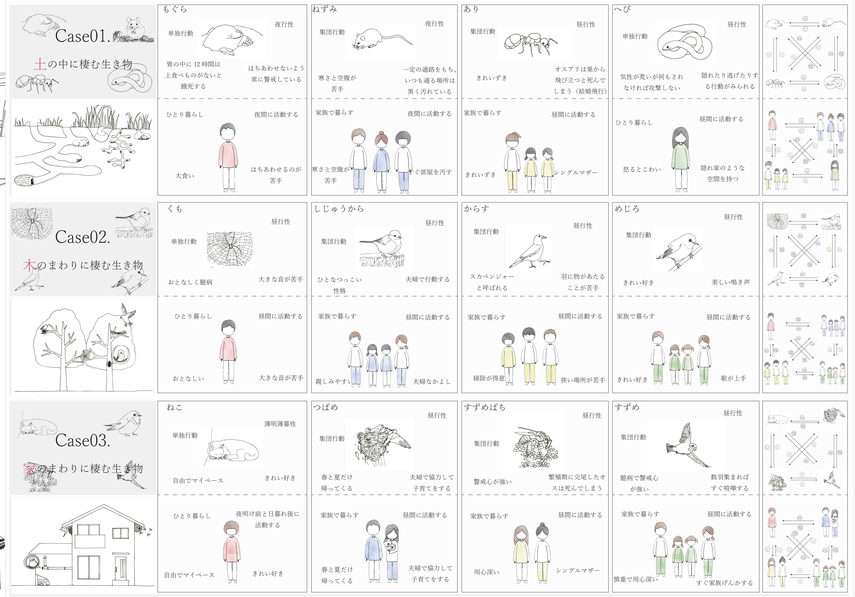
05 ダイアグラム―生活動線が絡み合って家ができる



動物の習性や生態から住人の動線を作成する。

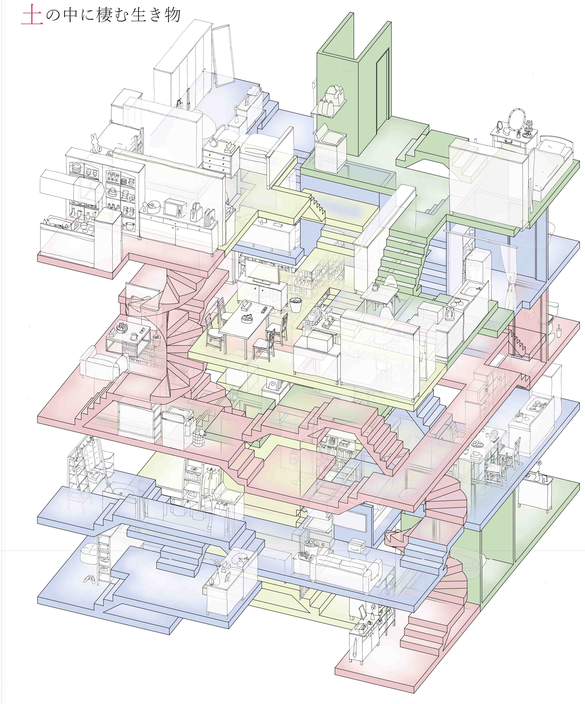
【シェアハウスの設計】

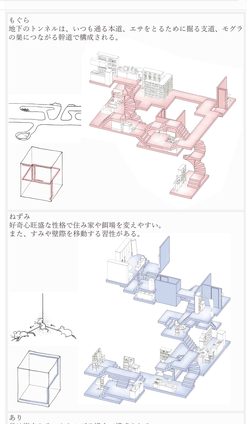
作成したそれぞれの動線を合体させひとつの空間を作成する。
動線が交差したり近づく部分は、それらの動物の関係から空間を設計する。

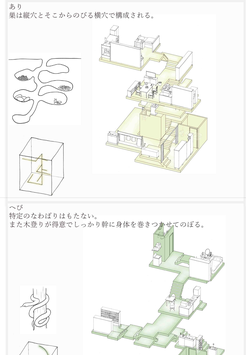


Case 01.

土の中に棲む生き物

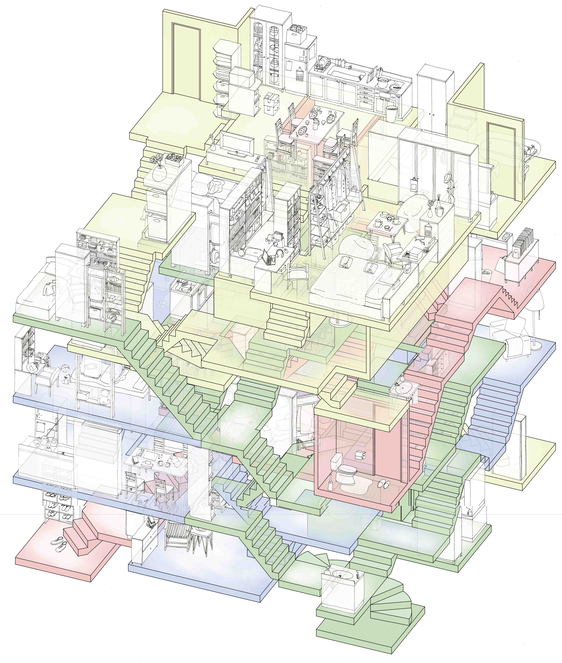


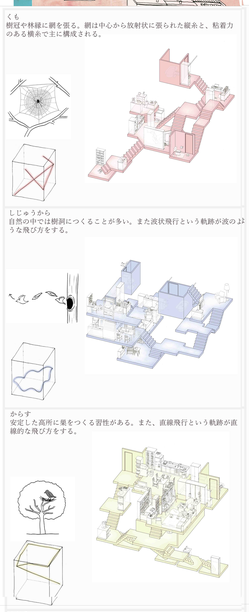




Case 02.

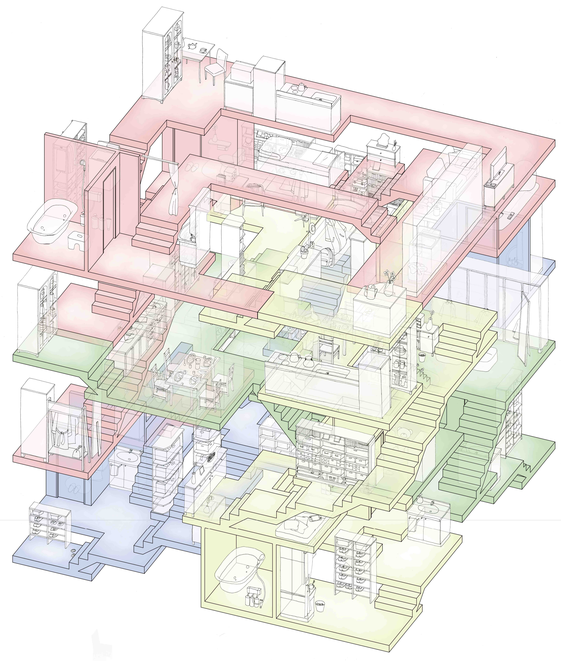
木のまわりに棲む生き物

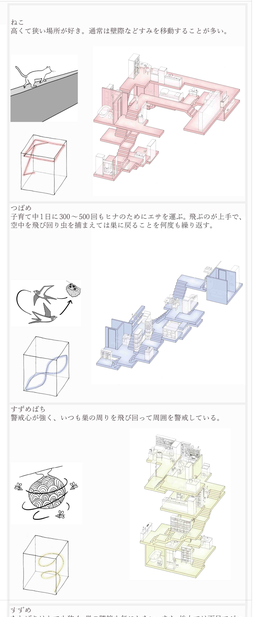


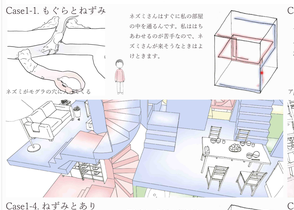


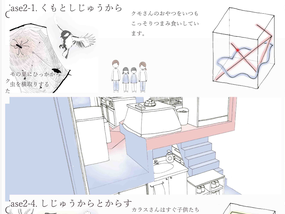
Case 03.

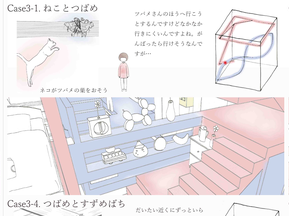
家のまわりに棲む生き物











Case3-6. すずめばちとすずめ